

第一回中間報告書

(報告期間 2021年9月27日～2021年12月26日)

国際ロータリー第2710地区

2021-2022年度グローバル補助金奨学生

西村 大河

■ 報告書提出日：2021年12月26日

■ 基本情報

派遣ホストクラブ：広島西ロータリークラブ

カウンセラー：大植 伸 様

受入ホストクラブ：Rotary Club of Bath

カウンセラー：Mr. John Harney

教育機関：University of Bath

専攻分野：International Development with Conflict and Humanitarian Action MSc

■ 学業面での成果

2021 年度秋学期に履修しているユニットは以下の通りです。

- 紛争、開発と平和構築（レクチャー・セミナー）〔必修〕
- 国際開発の歴史と理論（レクチャー・セミナー）〔必修〕
- 国際開発の研究（レクチャー・ワークショップ）〔必修〕

以下は履修または参加したその他の学業に関わる活動です。

- アカデミック・インテグリティコース〔必修〕
- スキルセンターワークショップ

初めての学期ということもあり、当初はコース自体に上手く適応できるか多少不安もありましたが、全体を通して学業を十分に楽しむことができたと思います。これまでの職務・学業経験や課外活動で得た知識を満足に活用できた一方、授業で得た新しい知識を課題等に十二分に応用できるほど自分のものにできていないと感じているのが今後の課題です。

紛争、開発と平和構築のユニットは、その名の通り紛争と開発、平和構築の分野における主要な概念的議論の導入を目的としています。ユニットの前半は、特に紛争の原因理解に焦点を当て、現代の紛争に対する理論的な見解を学び、それらを政治、社会学、国際関係、そして経済的な視点から考察しました。後半は平和構築と紛争終結後の国家再建のための理論的なアプローチについて学びました。また、ユニット全体を通し、学術的研究における質的・量的データの使用とその政策への影響に対し批判的な評価を行いました。中間課題の紛争分析では、クーデター後のミャンマーでの人道危機を題材に、紛争の歴史的背景やその要因、主要なアクター、グローバル・国家・地域・ローカルレベルでの関連する出来事についての研究、分析を行いました。ミャンマーの紛争の文化的・歴史的背景を理解でき、それをもとに潜在的な紛争の要因を考えるととても有意義な課題でした。セミナーでのグループプレゼンテーションでは、「紛争とジェンダー」というテーマで女性のエンパワーメントとジェンダーの主流化、その手法についてお話ししました。戦後の広島のリ建についてもジェンダーの視点から少しだけお話ができ、教授やコースメイトに興味をもってもらえたので良かったです。

国際開発の歴史と理論のユニットは、国際開発という分野の台頭と歴史的発展を包括的に導入する授業でした。「国際開発とは何か？」という一見基本的な問いからはじまり、開発の理論と実践の重要な変遷を学び、異なる分野、地理的・文化的文脈において歴史的に発展してきた国際開発の意味と概念を探究しました。加えて、現代の開発を支える方法論や学術的な枠組みとそれらが国際開発の実際をどのように解釈し、政策に影響を与えているのかを知ることができました。中間課題は、飢餓の軽減と制度化における世界銀行の役割に関する論文の批判的文献レビューでした。政府開発援助(ODA)の予備知識があったため、関連データと絡めた考察を行いました。フィードバックでは、主張を洗練しようとする試みは野心的だと評価していただいた一方、1000 字という短いエッセイであったために言葉足らず

であったことと、思考を簡潔に伝えるためのライティング能力の欠如をご指摘いただきました。後期は自習に加え、スキルセンターの言語コースなどを履修し、言語能力の向上にも努めたいと思います。

国際開発の研究のユニットは、他のユニットに比べ実践形式の授業が多かったです。このユニットは主に修士論文や実習のために必要な知識と技術を養うためのユニットで、文献レビュー、様々な研究方法の比較対照、主張の明確化のための必須スキルを磨くためのグループワークなどの活動が多く実施されました。加えて、研究のデザインや手法、ポリシーブリーフの書き方についての講義やケーススタディとして大学教員のプロジェクトのプレゼンテーションがいくつかあり、春学期からの研究や実習の準備に特化した内容でした。このユニットには学際的ワークショップが組み込まれていました。マネジメントや化学工学を専攻する学生と、チリでのリチウム採掘が引き起こす問題について、それぞれ与えられたステークホルダーの役割から議論・交渉をし、グループでレポートを提出するというものでした。議論への参加やレポートの段落の寄稿など最低限の貢献はできましたが、化学や工学などの技術的な話になるとなかなか理解するのに苦労した点もあり、幅広い知識や技術の必要性を感じました。また、コミュニケーション不足や学生間の課題に対する温度差などからグループワークの難しさを知ることができました。

必修のアカデミック・インテグリティコースは、文献の引用や参照方法、盗用について学ぶためのコースでした。バース大学で採用されている Harvard Bath 形式は、米国で使用していた APA 形式とはかなり引用方法が異なるので、必修のコースがありとても助かりました。コース受講後の試験にも難なく合格できたのでよかったです。隔週実施されるスキルセンターのワークショップでは、文献の引用方法の復習や、ライティング・リーディングのコツ、履歴書やカバーレターの書き方など、今後も役立つ情報を学ぶことができました。

■ 受入地区でのロータリーとの関わり、奉仕活動、カウンセラーとの交流



2021年12月4日(土)にバースロータリークラブのカウンセラーの John Harney 様とメンターの Robert Philpott 様にホルバーン美術館の喫茶店でお会いしました。渡英してからずっとメールでのやり取りを続けており、バース RC のミーティングにも参加させていただく予定だったのですが、コロナウイルス拡大の影響もあり、まずはお二人と感染防止対策を徹底してお会いすることになりました。初めてお会いしたため、自己紹介からこれまでのバースでの生活や大学での学業について、学士過程での専攻や職務経験についてなどをお話しし、バース RC の奉仕活動やこれまでの奨学生の受入れ経験についてもお聞きすることができました。コロナウイルスの感染拡大状況にもよりますが、今回はクラ

ブのミーティングにお招きいただけるようです。プレゼンテーションの準備をしておきたいと思います。お二人にはご用意いただいた名刺と、ブックマークとバッジのお土産、広島西ロータリークラブのバナーを手渡すことができました。

■ 直面した課題、問題点等

学期中に病気にかかってしまいました。コロナウイルスのこともあり、体調管理には気を配っていたつもりでしたが、流行りの風邪で授業にも出席できず非常に残念でした。最近、近い友人やハウスメイトにもコロナウイルスに罹患した人が多数でています。コロナウイルス変異株の感染拡大が続いている状況でもありますので、今後も感染防止策は抜かりなく行い、体調管理もしっかりしていきたいと思います。

■ 今後の課題、目標

秋学期は授業の準備や課題等で時間的にあまり余裕がなく、授業の復習等が満足にできなかったため、来学期は効率を上げ、研究や自習にもっと時間を作ることを目標としたいと思います。

言語に関しても、授業を理解したり、ディスカッションに参加したりするにはあまり問題は無いのですが、特にライティングとリーディングの能力が十分だとはいえないので、向上を試みます。専門的または専門外の話になると、わからない語彙もでてくるので、予習・復習に加え、常に予備知識を持っておけるように普段から見分を広めることに努めます。

■ その他特記事項



事後報告となってしまい大変恐縮なのですが、2021年12月10日から12月17日までの間、友人の結婚式のためカタールに渡航しました。初めての中東への渡航ということもあり、欧米とはまた違った異国情緒溢れる文化や宗教を肌で体験することができ異文化理解の観点からもとても有意義な経験となりました。